

ICT化による保育業務の効率化について

泉光こども園
園長 野本 宣寿

大分県が実施したアンケートでは、現役保育士、潜在保育士が抱える悩みや負担は、給与・手当について、長時間労働と職場内人間関係が大きな割合を占めています。当園の試みはこのアンケート実施以前からなされているのですが、これらの悩みや負担を取り除くことで、保育士の確保は比較的容易になるのではないかと予想はしていました。

さらに行事の前など、だんだん余裕がなくなっていく職員の顔を見て、自園で良い保育ができていると胸を張って言えるだろうか。これから保育の道を目指そうとする学生たちがこの姿を見たとして、本当にこの仕事をしたいと思えるだろうか。という自省も働き方を見直す大きなきっかけとなりました。

給与・手当に関しては、給付費の関係もあるのでそう簡単に大きく改善できるものではありません。しかし、長時間労働の是正や職場内人間関係の改善に関してアプローチをかけるのは、工夫次第で明日からでも可能です。

長時間労働の是正や職場内人間関係にどのようにアプローチをかけていくのか。当園ではまず、ノーコンタクトタイムの確保、バケーション休暇を導入することを職員会議で園長が宣言しました。

- * ノーコンタクトタイム＝保育室から離れての休憩時間、当園では40分間を園内、もしくは園外でとるが、園内にいる場合は基本的に休憩室で取ることをルールとしている。
- * バケーション休暇＝連続7日間の有給休暇。年度の始めに職員間で話し合い、好きな期間に取得する。

ノーコンタクトタイムの取得、バケーション休暇の取得は共に、自分たちの仕事が見える化し、工夫によって時間を捻出する必要がありましたが、職員にとっては魅力的なものであったことは間違いありません。

当初、ほぼ全ての職員が「嬉しいけれど、現実的に無理です。」と反対しまし

た。しかし、園長の強い希望で、自分たちの仕事を見つめ直すことから始め、短い時間からでもノーコンタクトタイムの取得を毎日続けました。

結果的にそれによって、長時間労働是正へと向かいました。さらに、チームで互いにフォローし合う体制が不可欠とわかり、職場内の風通しが良くなってきているのを実感しています。

とはいえ、子どもを保育しながらどのように時間を捻出していくのか。当園が特別だったわけではありません。少しずつ時間をかけて職員に浸透していったものであったと振り返っています。

その際に最も効果を発揮したのは仕事の ICT 化でした。

登降園管理システム

送迎の際、保護者が自分の子供の名前が書いているカードをリーダーにかざすと、登園と降園時刻が園の PC にデータとして送信される。カード式、タッチパネル式等多数あるが当園ではカード式を採用。園の玄関にカードリーダーと、園児の名前が書いたカードを設置している。

各人の認定情報などもカードに登録させているので、そのデータを元に児童出席簿が作成されるのと同時に、月々の延長保育利用料金等が自動的に算出される。

効果

- ・ 保育教諭等によるそれぞれのこどもの登園・降園時間のチェック時間の削減
- ・ 事務担当職員による 1 号認定・ 2 号認定・ 3 号認定・ 短時間・ 標準時間など複数の認定によって変わる延長料金や一時預かり料等に応じた個別請求にかかる事務時間の削減
- ・ お金が絡む事柄からの解放。

元々かかっていた時間 20分 / 日 → 3分 / 日

カットできた時間 17分 / 日 (職員聞き取りによる推定)

保育指導計画作成システム

保育計画書類等の書類を一元化して保存、管理、編集できるソフト。以前のデータの呼び出し、編集等が非常に容易にできるので、毎年新たに作り直す必要がない。セキュリティも強固。

効果

- ・ システム上でこれまでのデータが一元管理されているので、月案・週案・日案・個別指導計画の振り返りおよび共有が容易。

(導入して1年目と、指針等が変わった際はテンプレートがない状況なので効果を実感するのが難しい。)

- ・ システム上で管理する場合、暗号化されそのシステム上でしか見ることのないデータで管理されるので、セキュリティリスクを下げられる。
- ・ 間違いの訂正などが容易

元々かかっていた時間 120分 / 月 → 30分 / 月

カットできた時間 90分 / 月 (職員聞き取りによる推定)

連絡帳アプリ

運用に対して、事前に保護者とのコンセンサスが必要。

毎日の出欠、家庭および園で食べた食べ物、登園前の体温、機嫌等をスマートフォンアプリを通して園と家庭で相互に連絡しあうもの。さらに、一斉メール機能、個別メール機能、カレンダー機能、クラス投稿機能など、保育施設運営者・利用者に特化したアプリを当園では使用している。

効果

- ・ ほぼ同じ内容の文章を各人の連絡帳に書き込む必要がなくなる。
- ・ 指紋認証・顔認証等によるセキュリティがかけられる。
- ・ 園からのお知らせ等を一斉に送ることができるので、連絡網が不要。
- ・ 出欠連絡をアプリ上で行うことによって特定時間帯にかかる電話時間の短縮。
- ・ カレンダー機能で、園の行事等のスケジュールを保護者と共有できる。
- ・ 毎日の活動を写真で保護者に報告することで、保護者とこどもの会話、保護者と職員の会話が生まれる。さらにそれが職員にとっても保育日記となる。
- ・ 連絡帳紛失リスク、渡し間違いリスクの排除。

元々かかっていた時間 未満児クラス 60分 / 日 → 15分 / 日

以上児クラス 30分 / 日 → 15分 / 日

カットできた時間 未満児クラス 45分 / 日

以上児クラス 15分 / 日

(いずれも職員聞き取りによる推定)

職員間共有カレンダー

当園では、TimeTree という無料アプリを使用している。全員が大きな行事だけではなく日常の行事、さらには全員で共通理解を図るべき事柄について、アプリ上で共有している。

効果

- ・ 手帳を持ち歩かなくても園の行事等が確認できる。
- ・ 掲示板機能を有効活用することで、職員全体への共通理解を図ったり、職員会議の時間が短縮できる。
- ・ 精神的な負担減少に大きく寄与できる。

元々かかっていた時間 60分 / 月 → 0分 / 月

カットできた時間 60分 / 月 (職員聞き取りによる推定)

写真販売サービス

プロカメラマンの派遣撮影及び、写真販売委託サービス。行事や普段の保育風景を撮影し、販売まで自動で行ってくれるので、自園ですべてをこなしている園にとっては大きな時間削減になるのでは。

当園では、元々写真販売を行なっていなかったもので、働き方に対する効果は測れなかったが、保護者には好評。

カットできた時間トータル	未満児クラス	62分 / 日
	以上児クラス	32分 / 日
	全体	150分 / 月

すべてを月に直すと・・・(開所日数 25 日で計算)

未満児クラス 1, 700分 (28.3時間)

以上児クラス 950分 (15.8時間)

では、年間に直すと・・・(実質拘束時間9時間で計算)

未満児 339.6時間 (37.73日分)

以上児 189.6時間 (21.06日分)

1日でカットできる時間を考えれば、効果は薄いように感じますが、このように長い目で見たときにカットできる時間はかなりのものになりました。

元々かかっていた時間は、園によって大きく変わってくるので、全ての園で同じくらいの時間がカットできるとは限りません。しかし、当園よりもカットできる時間が多くなる園も多く存在するでしょう。

経営者としてはここで得た時間で何をするか。ということを確認にして、職員とゴールのイメージを共有する必要があります。私は前述したように長時間労働の是正と、人間関係改善のためのノーコンタクトタイムの取得、バケーション休暇の取得に当てましたが、園内研修など保育の質の向上に充てるのも一つの手であると思っています。(ただ、それだけでは職員さんにとっては魅力的なゴールイメージではないかもしれません。)

そもそも保育の仕事自体がまだ幼い命を預かることや、予測外行動への注意、保育を享受する相手とそれを評価する相手が違うことなど、元々精神的な負担が多いものです。近年ではアレルギー児や発達障がい児への対応などもその精神的負担感を加速させているといえるのではないのでしょうか。

保育の仕事は感情労働にも関わらず、これまで精神的負担感については、やりがいという言葉でなんとなく誤魔化されていたように感じています。

現場の先生たちが仕事の効率を高め精神的負担を軽減して、穏やかに子どもと向き合える環境を作り出すことが、自園の保育の質の向上、ひいては保育士確保のための大きな一歩となるのではないのでしょうか。